

「あなたの救いの計画」

詩篇 第89篇 1節～5節
マタイによる福音書 第1章 1節～11節

説教 岡村 恒牧師

「アブラハムの子であるダビデの子、イエス・キリストの系図。」(1節)これが新約聖書冒頭の言葉です。聖書を読み始めた方が、いったいこれは何の話だろうかととまどい、躓いてしまうことがあります。今日からこの福音書をご一緒に読み進んでまいります。私たちはこの系図を通して、私たち自身の救いに関わる福音を受けとめ、神の慰めを発見していきます。

主イエスの系図はルカによる福音書第3章にも登場しますが、主イエスからダビデ、アブラハムを経てアダムにまで遡る系図です。これに対してマタイによる福音書は、アブラハムとダビデという特別な人物に光をあて、私たち自身の救いに関わる神の計画を読み取らせます。

「アブラハムの子」、「ダビデの子」として、主イエス・キリストが登場します。アブラハムという人は、ある日神に呼びかけられ、ただ神にだけ信頼して生きる人生を歩み始めた人物で、「信仰の父」と呼ばれています。「アブラハムの子」であるイエス・キリストも、神のみ心に従い、神の救いの計画に用いられたお方です。イエス・キリストは、アブラハム以上に、全身全霊を神に委ねて歩まれました。十字架での死を前にしたグッセマネでの祈りにおいても、父のみこころが成就するようにと祈られました。「アブラハムの子」という呼び名は、主イエスが、十字架の死に至るまで徹底的に神に従われたことを言い表しています。

「ダビデの子」とは、イエス・キリストこそ神があらかじめ約束して下さった救い主である、という話です。また、ダビデ王は、ユダヤ最大の王でしたが、同時に、取り返しのつかない大失敗をした人物です。赦されることなどあり得ないと思われたその罪を悔い改めた時、神が赦して、豊かに祝福して下さった、そういう経緯を持つ王です。

旧約聖書はその冒頭で、全知全能の神がこの世界を造り、祝福して支えておられることから書き始めました。そして新約聖書は、この神が、アブラハムを選んだようにこの私たちひとりひとりを選び、あのダビデを赦して祝福なさったように、私たちひとりひとりの罪を赦し、新しい命と希望を持って生きる者にして下さるといふ約束を語るころから語り始めます。

この系図の中には、本来、ユダヤ人の系図には登場するはずのない人物、4人の女性が登場します。「タマル」(3節、創世記 38章6節)、「ラ

ハブ」と「ルツ」(共に5節、ルツ記)の3人は異邦人で、ユダヤ人が信じる真の神を信じながら差別され、悲しみを負った女性でした。「ウリヤの妻」(6節、サムエル記下 11章2節～27節)は、ダビデ王が自分の権力によって部下から奪い取った人妻でした。しかしダビデが神に砕かれてこの罪を悔い改めた時、神はダビデをお赦しになり、王国に繁栄を与えて下さいました。

ここに登場する女性たちは、ユダヤ人にとっては系図から抹殺したい人物でした。しかし聖書は、わざわざこの4人を記します。そうして、繰り返し神にそむく私たちを、神がどれほど愛し、赦し、祝福して下さるのか、ということがこの系図から語られていきます。本来神とは無関係であった私たちが、ただ神の招きに応えて罪を告白し、神を信じて歩み始める時、神は私たちを赦し、あのダビデのような、いやそれ以上の祝福を与えて下さるのです。

ダビデに続く名前の多くが、ユダヤの王たちの名前です。彼らが国を治めた時代、繰り返し預言者たちが登場し、悔い改めて神への信仰を回復するようにと警告しました。神に逆らう者たちを招き続けて下さった神の姿がこの歴史の中に記されています。

聖書は、このような私たちの歴史を貫くようにして主イエスがおいで下さったことを記しています。主イエスの系図には私たち全ての者の歴史が埋め込まれています。私たち自身の人生が、この系図に重ねられ、主イエスによる救いに結び付けられています。ですから、この系図を記し終えるとすぐに、「おのれの民をそのもろもろの罪から救う」(21節)救い主誕生を記します。これは、今ここで聖書を読む私たちが、この主イエスの物語の中に、自分自身を発見するためです。神の民でない者、神の赦しと無関係だった私たちのために、主イエス・キリストは来て下さいました。これが聖書が語る《福音(良い知らせ)》です。

この系図には続きがあります。主イエスを信じる者が神の民に加えられ、この系図に書き加えられています。神の赦しと祝福の歴史が、終わりの日を目指しています。誰でも、主イエスの福音を信じる者は、この救いの民の系図に連なり、主イエスに結び合わされて生きるのです。そして終わりの日、多くの信仰者と共に、神の前に立つのです。

(記 岡村 恒)